

鹿児島第3地方合同庁舎

所在地	鹿児島県鹿児島市山下町13番10号	設計	国土交通省九州地方整備局 株式会社梓設計九州支社
地域・地区	鹿児島都市計画高度地区 景観重点整備地区(2019年3月より)	工事監理	国土交通省九州地方整備局鹿児島宮繕事務所 オーツ設計
庁舎	鉄骨鉄筋コンクリート造：地上5階・地下1階 建築面積 2,268.46㎡ 延床面積 11,588.42㎡	建築工事	株式会社奥村組九州支店
入居官署	鹿児島地方検察庁・区検察庁 鹿児島地方検察庁 鹿児島保護観察所 鹿児島財務事務所	電気設備工事	日本電設工業株式会社九州支店
		機械設備工事	新日本空調株式会社九州支店



国道10号「歴史と文化の道」に面する鹿児島第3地方合同庁舎

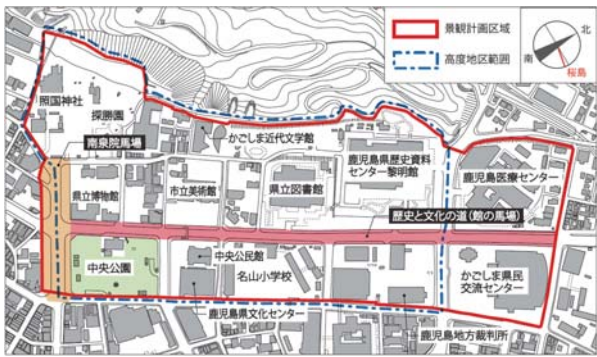
■ 歴史と文化の道地区の景観を守る

● 鹿児島を代表する歴史と文化の道地区

本敷地は鹿児島(鶴丸)城跡の東に位置し、多くの史跡や文化施設、官庁施設が集積しており、鹿児島の歴史・文化・観光を代表する「歴史と文化の道地区」内にあります。

歴史と文化の道は、電線類が地中化され、歩道の石張り、親水水路、イヌマキの植栽、ガス灯の整備がされ、潤いと安らぎのある街路空間が創出されています。

さらに、この地区一帯の景観風致を一体的に維持・保全し、後世に継承するために、高さ20mの高度地区が設定されており、建物の高さがそろった良好な景観が形成されています。



景観形成重点地区「歴史と文化の道地区」の範囲



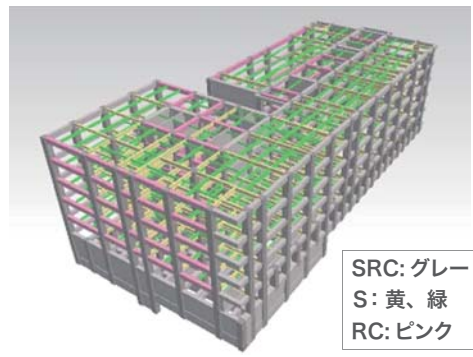
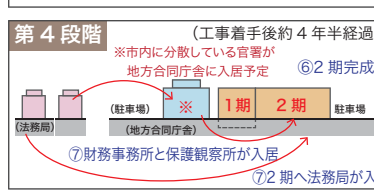
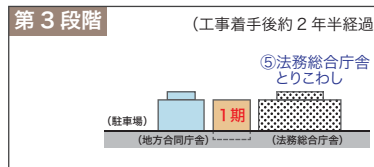
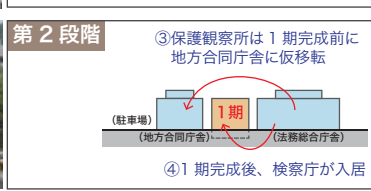
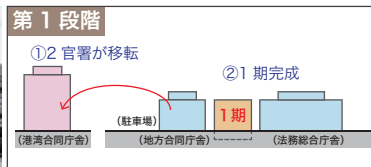
歴史と文化の道地区の現況

● 建物高さ20mを守るために

敷地内の駐車場として利用されている場所に新しい庁舎を計画しようとすると、高層の建物となってしまいます。

そこで、工事を2期に分け、まず地方合同庁舎と法務総合庁舎に挟まれた駐車場に第1期庁舎を建設し、次に法務総合庁舎を解体し、その跡地に第2期庁舎を建設する計画としました。入居官署の移転手順を工夫することで、仮庁舎の建設を不要とし、建設費を抑制しています。

また、建物を2棟に分けずに、1棟とすることで、階段や機械室などの共用部分の縮減をしております。



建設の順序

■ 地域との連携

● 鹿児島県、鹿児島市、国が連携

鹿児島県、鹿児島市と国で連携し、景観形成に配慮し、観光振興やまちづくりに貢献するよう施設整備の内容を検討しました。

- ①街並みとの親和性を高め、親しみやすい開放感を演出する「エントランスモール」を整備
- ②桜島の降灰や強い日差しに配慮し、縦ラインを強調した柱やルーバーを連続的に設けることで、彫深く官庁施設として風格ある外観を形成
- ③工事期間中の仮設物(仮囲い等)も景観に配慮
- ④鹿児島合同庁舎の既存ポケットパークを、御楼門、御角櫓等の写真撮影や展望などでもできるスペースとして改修
- ⑤北側来客用駐車場の一部について、閉庁日(休日)に、観光バスの乗り降りスペース、観光客等の駐車場として利用できるよう調整



地域連携検討分科会による主な成果

● 「雄凜」の外装デザイン

時を経ても変わらない「薩摩びと」の精神である「雄々しさ」と地方検察庁、法務局などの入居官署の業務特性のイメージである「凜々しさ」を外装のデザインに取り入れました。

「雄」	「凜」
進取・力強さ・風格	言い表しがたい繊細さ、上品さ
▶垂直性、縦長窓、彫りの深さ	▶灰白の階調美
安定感	公平さ・規律性・厳格さ
▶3層構成、モール上の水平庇	▶同一ユニットの連続



「歴史と文化の道」に面する庁舎の外観

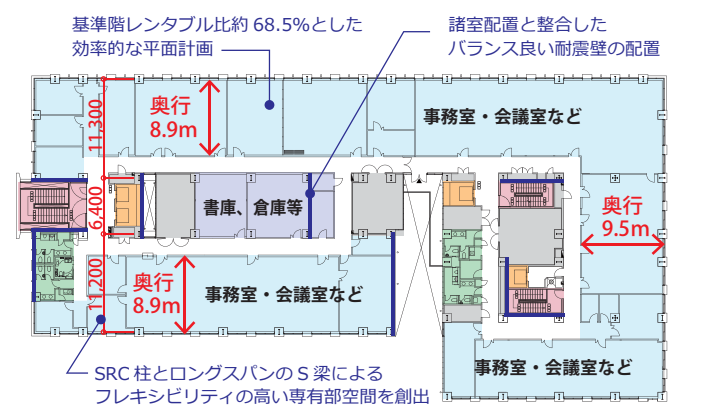
● 御楼門の復元事業との連携

天守閣を持たない鹿児島城では、高さ20mもの御楼門がシンボルであり、官民一体で復元中です。御楼門を展望し、写真撮影などができるよう既存のポケットパークを改修します。障がいを持つ方に現地を確認してもらい、意見を反映しています。

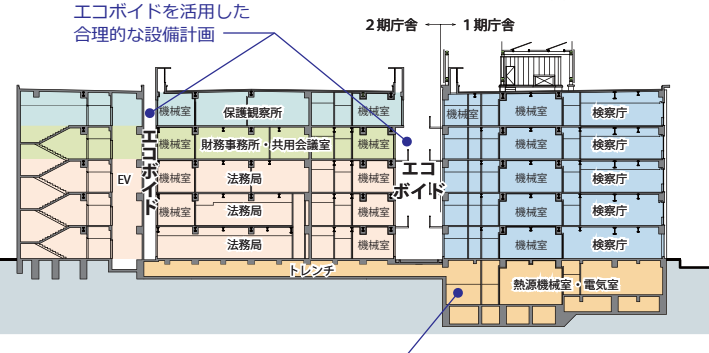


市民の意見を反映したポケットパークの整備

■ 平面・断面計画



基準階平面図



断面図と入居官署の階構成

● 耐久性を高めた木材

1期庁舎玄関脇には、液体ガラスでコーティングすることにより耐久性を高めた木製縦ルーバーを設けるほか、エントランスホールにも木製ルーバーで玄関を演出します。



木製縦ルーバーによる玄関の演出